

分散型事業場におけるストレスチェック体制の構築①	
評価（該当する数字に○、もしくは該当しない選択肢を削除）	<p>① : 選定基準に合致している好事例</p> <p>2 : 具体化など修正を要する箇所があるが好事例</p> <p>3 : 今回の選定基準とは合致しない</p>
記入欄	
【1の評価 コメント】	<p>活動の良い点</p> <p>全国規模の建設業において各支店におけるストレスチェック体制を構築するにあたり、既存の安全衛生委員会や衛生管理者・保健師等を活用した取り組みを強化し、各支店の衛生管理者等にストレスチェックの意義や活用方法を周知し、その後の相談活動などにつなげることができた点。</p>
	<p>他事業所で活用できる点</p> <p>① 全国規模の企業の場合、安全衛生委員会を段階的に運用。中央安全衛生委員会からの発信事項を、TV 会議により各事業所（支店等）の安全衛生委員会と情報共有し、周知徹底を図る</p> <p>② 各安全衛生委員会の事務局に保健師が入り、衛生的な視点で情報発信の工夫、資料の改訂などを積極的に提案する。ストレスチェックの勉強会の開始、相談窓口の再周知などを協議事項に追加する</p> <p>③ 各支店の衛生管理者ならびに業務課責任者と保健師との連携を強化し、支店内の安全衛生の情報発信や安全配慮の取り組みを強化する</p>
	<p>今後の期待</p> <p>各支店の衛生管理者からの問い合わせ・相談件数の増加、ならびに、高ストレス者の減少傾向などが見られており、今後の継続・強化が期待される。また、社員自身がストレスチェックの意義を自覚し十分活用できているか、ならびに、さらに知りたい情報等についての確認ができると、今後の一層の活動強化につながると考えられる。</p>
	<p>その他</p> <p>最後に提示された表より、衛生管理者から保健師へのメンタルヘルス関連に関する相談件数が 2.3 倍になったのに対し、フィジカル対応に関する相談が 6.8 倍になっていたことが読み取れる。ストレスチェック体制の構築を目指して行った本施策が、メンタルヘルスの側面だけでなく、身体的な健康課題に関する相談の増加にも大きく寄与していることが示されており、非常に興味深い。ストレスチェックの意義等の周知だけでなく、関係者間の連携を強化することにより、全般的な相談件数の増加につながったことが示唆されたと考えられ、改めて心の健康と身体の健康を統合した対策の重要性が伺える。</p>